研究区分	教員特別研究推進　教育推進

研　究 テーマ	病棟における看護師の生活行動援助の実態と認識 －看護と看護教育の歴史的変遷で見出された視点からの検討				
研究組織	代　表　者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	山口　みのり
	研究分担者	所属・職名	亀田医療大学・講師	氏名	有家　香
		所属・職名	名古屋市立大学病院・看護師	氏名	八代　律子
		所属・職名	人間環境大学・准教授	氏名	服部　美穂
	発　表　者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	山口　みのり

講演題目

「清拭」の援助に関する文献レビュー

研究の目的、成果及び今後の展望

【研究の背景と目的】

医療の高度化に伴う患者の重症化や高齢化により、病院施設における生活行動援助の需要はあるが、看護師ではなく看護助手により行われる、あるいは行わないという病院も見受けられる。在院日数の短縮化、高度な診療の補助業務の傾向、タスク・シフト/シェアのみられる昨今、看護師に求められる看護行為そのものに変革が起きている。さらに COVID-19 の感染拡大により、看護体制、援助的人間関係、身体に触れる看護行為に模索が続いている。

これまでの歴史的変遷を辿ると、生活行動援助のなかでも清潔の援助について、教育内容が身体を部分的に清拭する手順と化していることや、生活の視点で教育されていないことが見えてきた（R2 年度、R3 年度報告）。また、清潔の援助として実施される清拭では、ディスポーザブルタオルを用いた清拭が広く行われるようになり、清拭物品やその考え方に変化が生じている。そこで令和 4 年度は、「清拭」における研究動向を明らかにするため、文献レビューを行った。

【結果】

PubMed、CINAHL Plus、医学中央雑誌 Web 版をデータベースとして “bed bath”“清拭”を検索語とし、2018-2023 年の原著論文を検索した。海外文献 46 件中、清拭の技術・援助に関する研究報告は 30 件で、内訳はレビューが 11 件、学生への教育について 3 件、方法の違い（不織布（ディスポーザブル）と綿タオル、湯を用いた清拭と乾式清拭、清拭圧やシャワー）による生理的反応の比較が 13 件、看護師の行為を参加観察した報告・患者へのインタビュー・症状別患者への実施状況が 1 件ずつであった。国内文献では 77 件検索されたが、多くが学生の臨地実習での取り組みや教育方法を扱った報告であった。看護師による清拭を扱ったものは 18 件で、方法の違い（清拭の方向、乾式の拭き取り、タオルの温度等）における皮膚汚染の除去率・pH、生理的反応の比較 7 件、不織布と綿タオルにおける清拭圧の比較 2 件、化繊タオルの含有成分の有無、生地の違いによる皮膚温・pH 等の比較 2 件、沐浴剤の有無による皮膚保湿効果の比較 1 件、患者のリラックス効果の測定 1 件、院内での不織布と綿タオルの使用頻度の比較 3 件、看護師の認識 2 件であった。臨床の患者を対象とした研究は少なく、健常な成人を対象に行った実験、タオルの種類に着目して効果を検証した研究が多く見られた。

【今後の展望】

実際の看護実践には、臨床看護師の清潔援助の考え方や臨床で用いられる物品が大きく影響する。エビデンスの追究と同時に臨床現場の実態を捉え、看護教育を検討していきたい。